

心をつなぐ

あなたが主役

# 大みか社協だより

第 47 号  
 平成 28 年 12 月 5 日 発行  
 大みか学区  
 コミュニティ推進会  
 会長 村山 達男  
 地域福祉局(社協)  
 編集・調査広報部  
 日立市大みか 3-19-16  
 大みか交流センター  
 TEL・FAX 53-5211  
 地域福祉局  
 TEL・FAX 53-5363



## 大みか学区敬老会開催される!

初秋の九月十七日 於 大みか小体育館  
 米寿褒章受章の皆様お祝い申し上げます

大みか小学校児童一同

今年度の大みか学区内の敬老会招待対象者は、四七二名でした。代理参加者を含め三〇四名の出席者をお招きし、大みか学区コミュニティ推進会・

村山会長の挨拶に続き、米寿を迎えられた二十九名を代表し、赤津義男様に褒章と記念品が贈られました。式典では、日立市議会議員

石井仁志氏、大みか小学校・村田浩子校長先生、泉丘中学校・濱村幹雄校長先生、市関係来賓者のご挨拶を戴きました。



私達が 次の敬老会を受け継ぎます

### 『泉丘中学校・濱村幹雄 校長先生のご挨拶』

大みか地区敬老会の開催、お祝い申し上げます。本日は、生徒十二名がボランティア実習を通じ、貴重な体験と出会いが得られればと考えております。私は、中学教育の学びは、知識・感性・常識と健全な

体の成長と考えます。

◇ 挨拶が出来る

◇ 助け合いが出来る

◇ 感謝の心がある

◇ 活動が出来る

これらは、家庭内教育で育てられるものです。会場の皆様、良いお手本になられるよう、元気なお姿での活躍を期待します。



明日からは 私達の出番です ご期待下さい

### 気がつけば…八十歳

招待者代表 江尻芳枝さん

人生 下り坂 最高!

昨日 出来たことが

今日は 出来ない

これは歳をとると

あたりまえ!

ゆるりと下る坂道

何時までも女を忘れず

### オシャレが肝心

大きな声ではきかせ

ためるな ゴミとグチ

ためるなら 絆とお金

上手なご近所付き合い

歳を重ねることのため

らしい感じません。

しとやかな乙女心と強い

体を授けてくれた両親に

感謝です。

何時の間にか戦中・戦後

を誇れる数少ない歳となっ

てしまいましたね。

子供達の成長に夢を馳

せ、頑張ってくれた両親の

歳も超えました。人生下り

坂、ころばないように歩

きます。



私の八十年の歩み 皆さんに話せる しあわせ!

ご存知ですか？  
 八〇年前の水木小学校出身の五輪選手を！  
 ～なじみ深いラジオ体操の考案者～  
**遠山 喜一郎さん(明治四十二年～平成十一年)**

多くのリオ五輪出場選手が郷土に帰り、凱旋の栄誉を受けていますが、日立市水木地区からも五輪出場を果たした人がかつておりました。五輪出場が決まった当時尋常小学校四年生だった鈴木さんが話して下さいました。

「昭和十一年ベルリン五輪に水木出身の遠山さんの出場が決まり、競技種目は機械体操でした。」

「当時私は、小学四年生で学校中が遠山さんに憧れて、鉄棒・跳び箱・平行台：夢中で、選手気分で行っていましたね。」

「やっと尻上がりが出来て、上級生の大車輪を見るとサーカスの人かと思うほど上手に見えました。」  
 「五輪の内容など想像も出来ませんでしたね。」



鈴木進さん 90歳



ラジオ体操考案者も“遠山喜一郎”さん

遠山さんは、水木町の農家で、七人兄弟の末っ子として生まれました。ベルリン五輪大会に出場しました。

昭和二十六年にはラジオ体操の原案作成委員となり、「日本人の体力は、他国と比べると二〇年遅れている。体力作りのきっかけが必要である。」と体操を作る。

遠山さんが考えた「誰もが簡単に出来る体操」は、世代を超えて現代に受け継がれています。

参加者の真剣なまなざし



大みか 防災防犯部

低リスクと想っていた熊本で地震発生する！

今後三〇年年間の地震発生率を示す「全国地震予想図」の最新版が公表された。

他地域よりも発生率が低いとされていた熊本を襲った大きな揺れは、地震はどこでも起きるといふ現実を改めて突きつけられた。

「たとえ〇%であつても発生率が低いとは言えないと特に今は思う。」

数値はどうであれ、防災対策は進めなければならぬ。



訓練で 減災の備え 地域を守る

「震災」という文字は、「震」「災」に分けられる。「震」は地球の営みで、人には避けようもない。

けれども「災」なら人の力で減らすことが出来る。

県・市主催の「防災訓練」もあるが、地域住民参加型の防災訓練こそ「減災」をより効果的に発揮できる訓練と思います。



フォークダンスとは違います。

- バケツによる消火
  - 消火器の取り扱い
  - 初期応急手当
  - 緊急電話のかけかた
- 訓練目的は、減災技術の習得も重要ですが、大きな声で手渡すバケツ「ハイ！」心と心を結びリーです。夢つなく、減災訓練でした。

六月二十六日(日)  
 大みか地区避難訓練  
 於 大みか小グラウンド



効果的な初期消火法 手渡しバケツ

# 無責任にノラ猫にエサを与える方



この野郎！

またやられた！



「ノラ猫の一分」  
いちぶん

自己満足でエサを与えられ  
迷惑しています。猫権を失い  
ノラ猫で、嫌われネコです。  
貴方の勝手に一生ノラ

どうしたら  
いいのかなあ～

吾輩は、自由猫である！ 食住に不満はない  
老後を考え コロニーづくりを考えているのだ！

## 鉄道各社「歩きスマホ駅構内禁止」

「やめましょう」

歩きスマホ

歩きながらスマートフォンを操作する「歩きスマホ」を、駅構内で使用しないよう、全国の鉄道関係業者が11月1日から、各地で一斉に啓蒙活動キャンペーンを始めた。

最近、バス・鉄道で運転中の「ながらスマホ」の報道で驚くとともに、「スマホ依存症」行為がひろまる時期、タイムリーな啓蒙と思う。大みかの街かどでも朝夕の通学・通勤での「歩きスマホ」風景も珍しくなく、駅

## あなたの猫が「近所から好かれるには…」

あなたの飼う猫が近所の悪者にならないように飼う主は、きちんとした管理が必要です。



築き上げた、お付き合いが、チヨットした気づかいの緩みから崩れるのは、ニヤンともつらいです。



構内と同じ危険が潜みます  
日常生活に欠かすことのない道路では、  
・狭い車道との併用  
・走り回る自転車の歩道  
歩行におびえる高齢者が  
加えて「猪突猛進の歩きスマホ」の加速増加が予想されます。

弱者は早い動きが出来ません、衝突・転倒の思わぬ事故に繋がります…  
共有してこそ公共です。  
貴方の公共物ではない。

視野を広げ  
周りを見よう！

## 「大みか地区福祉功労者 顕彰を受ける」

平成二十八年年度日立市  
社会福祉協議会主催  
「ふくしのつどい」(十一月九日) 於 十王ホールが開催されました。

私達一人ひとりが、自分たちが暮らす地域に必要なことを「出来る範囲で、できる時に」その輪を広げることが大切です。大みか学区内で次の五名の方々が、

平日頃の福祉向上に尽力されたご努力に対し、顕彰が贈られました。  
民生委員・児童委員功労者  
白石 哲夫さん

宮本 信行さん

社会福祉活動協力援助者

鈴木 君子さん

小野 京子さん

市社協活動への個人寄付者

鈴木 豊男さん

年末になると、国・県からの褒賞者が伝えられます。  
少し目線を変えて、大みかの高齢者・小学生が選ぶ「お世話様No.2」の選考も楽しいのではないのでしょうか？

大甕駅舎工事は、平成三十一年度完成計画で工事が行われています。  
地下構造の駅舎と、東西出入り口を結ぶ地下通路、日立市玄関に相応しい  
新駅舎に期待します。



大甕 ヒストリー

明治二九年、水戸―田端間が日本鉄道海岸線(常磐線)として開業する。その後、常磐炭田の石炭をはじめ、日立鉱山や日立製作所の人員・物資などを運ぶルートとして東北地域に延長し助川駅・下孫駅開業。  
明治三〇年二月に「大甕駅」が開業する運びとなる。

当時は、大甕の地名は存在せず、水木と久慈浜の境界地域であり、人家は森山地区と大甕神社付近に点

在する原野の様子であったそうです。  
駅舎開業当時に、近在の村人が駅利用に係ることは想像出来ません。

大甕駅誕生と共に、駅前を中心に、旅籠・飯屋と街が形成され、初期には商店も含め十数軒の大甕駅の様子がうかがえます。

戦後間もなく商店・民家を含めた四十数軒の街図では現在の一割です。  
垣間見た大甕駅の歴史



昭和30年頃 大甕駅前広場での記念撮

より、宿場でもない大甕が駅の存在で大きく変貌する姿が見えてきました。

明治三〇年 日本鉄道海岸線 大甕駅  
明治四二年 路線名「常磐線」となる  
昭和三年 常磐鉄道開業  
昭和六一年 二代目 現駅舎完成

### 【福祉豆辞典】

#### 認知症高齢者の現状(平成二十二年)

介護保険制度を利用している、認知症高齢者は、約二百八十万人とされている。

認知症とは、「脳に器質性と疾患があり、記憶や言語などの複数の認知機能が後天的に低下して、それが慢性的に持続し、社会生活に支障をきたすこと。

認知症の原因には、アルツハイマー病・レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症があります。

認知症の主な症状には、記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認・実行機能障害があります。

行動・心理症状には、幻覚・妄想・異食・過食・拒絶・拒否・抑うつ・せん妄・不安・徘徊・多動などがあります。

認知症の方のケアはとても難しいと言われています。最近注目されているケアのユマニチユードの考案者イヴ・シネストさんは、「ユマニチユードの技術があれば、本人が望まない強制的ケアを、無くすことができる」と語っています。

そのポイントは、「見る」「話す」「触れる」「立つ」が基本といっています。

「触れる」は、つかむのではなく、本人の動こうとする意思を生かして、下から支えることが大切です。

〈次号につづく〉



臨床心理士 鈴木 豊男記

### 【編集後記】

日本選手がリオ五輪で活躍の報道が踊る中！

「Seiko i」(せいき)

「都民」(フアースト)

「レガシー」

都庁内騒動でやたらと、外国語が飛び交う。

国際都市東京ならではの言語文化かも知れない。

大みかの街で暮らせる、幸を感じる瞬間である。

静家は

一金に値する

朝もやが音を吸取るころ  
ご夫婦の足音だけが伝わる

「パーン パーン」

振りかえると、ご夫婦が柏手をうち、神殿に向き合う姿を見いだす。

今日一日の感謝？

「大切な忘れ物」を想い起こさせてくれる、得難い早朝の「御宮様」前でした。

広報部記

